OMC News 大阪ムービーサークル

ＯＭＣ事務局　〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227
広報編集局　〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781
http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/

平成２１年４月（2009年）No.５２０

# どうかお体を大事に 人生を楽しんでください

会長　合原一夫

３月の例会で西村さんがお休みでしたが、吉岡さんから旅先で事故に遭ったらしいと伺い驚きました。さっそく自宅にお電話するとご本人が出られて比較的お元気そうなお声だったのでひと安心いたしました。何でも旅先の石垣島で背もたれのない椅子に腰掛けていて、うっかり倒れて右手をついて痛みとハレを生じた由。旅を中止して急ぎ帰宅して病院に行ったら骨折していたとか。右手の骨折は大そうご不便だろうと推察しておりますが、もし足でも骨折して寝たきりにでもなったらもっと大変だったろうと、ものごとは良い方へ考えた方がよいように思いたいものですが、お互いに無理したり、つまづいて転んだりしないよう注意しましょう。

松本さんは体調不良とのことで今期は休会されております。また奥宏さんも長い間世話役をやって頂いていたのですが、体調がよろしくなく、世話役も降りられて例会も休まれておられます。毎月欠かさず作品を出品されていたのに残念ですが、一日も早く体調をととのえられて松本さん共々例会に顔出しして頂きたいと願うばかりです。

いずれにしましても会員諸氏は後期高齢者組みが増えて参りました。この頃とくに感じるのですが一日一日、一週間一週間があっという間に過ぎ去ってしまいます。残り人生いつまでか神のみぞ知るですが、プラスアルファの人生と思って体をいとい、健康に留意して家族を大事に、趣味仲間とふれ合い、楽しみあって、一日も長い人生を送らねばと考える今日この頃です。皆さんといつまでも例会日が待ち遠しい日々でありますように願っています。

## ４例会のお知らせ

４月例会は第４土曜日２５日 18時より、大阪市立難波学習センター（ＪＲなんば OCAT ビル４階）にて開催します。気候も良い季節です、作品づくりにも励んでおられる事と思います。どうか楽しい作品ご披露下さい。皆様のお越しをお待ちします。

## 撮影会参加者募集開始

恒例の一泊二日撮影会は、別紙にご案内の通り、八日市の愛知川河川敷で行われる「大凧まつり」を取り上げました。

参加希望者は同封のはがきを４月２２日までに投函して下さい。人数の把握を早急にする必要がありますので。撮影会は年に一度の親睦の旅でもありますので、できるだけ多くの方の参加を希望いたします。

・期日：５月３０日(土)、３１日(日)
・撮影対象：八日市の大凧揚げと近江豪商の町並み
・宿泊：八日市ロイヤルH、全シングル
・費用：１万６千円（できるだけ４月例会で会計にお支払下さい。）

詳しくは別紙案内書をごらん下さい。

**■撮影会作品公開コンテストは７月例会日**

撮影会作品公開コンテストは、７月例会日２５日の午後を会場予約しております。

**■秋のフェスティバル作品は７月例会締切**

10 月に予定しているフェスティバル上映作品の最終締切りは７月までの作品の中から選定いたしますのでよろしく願います。

**■新入会員のご紹介**

〒 592-0003 高石市東羽衣３－９－２
蟹江利一さん　TEL 072-263-9433

蟹江さんは以前から作品を作っておられるベテランさんです。よろしくお願いします。

## ３月例会レポート

３月例会は第４土曜日午後２８日午後６時よりいつもの難波市民学習センターにて開催。そろそろ桜の便りも聞かれる頃の本格的な春近しの季節、例会を待ちわびた仲間たちが集まり例会と二次会を楽しみました。

今月の司会は吉岡氏、書記、関氏、上映係は江村、増池の両氏、受付兼照明係は宮崎、進藤の各氏担当で会を進行しました。

**■出席者**：有村、石垣、井上、上田、江村、岡本、上総、紙本、河口、黒田、合原、関、進藤、西井、錦、華岡、藤原、前田、増池、宮井、宮崎、森下、安居、山本、吉岡の各氏に今月より新入会者、蟹江氏の計２６名の出席と１４本の作品が出品されました。

**■上映作品**（今月の記録と講評：関世話役）

**１、龍勝紀行（ＳＤ）**
**合原一夫さん　　９分**

チワン族が多く住むというから桂林がある広西壮族自治区の一角だろう。ここは棚田で有名らしく、それを見るために作者ご夫婦は駕篭に揺られながら山の上の展望台へ。窮屈で身動き出来ない乗り物にご不満のようだったが、自分の足であのきつい石段を登るのはそれこそ大変だ。訪れた時期を間違ったか棚田に水はなし。それに周辺が霞んでいて“耕して天に到る”という圧倒的イメージはない。滞留時間が限られたのか住民との触れ合いにいつもの親密さは見られずさらりとしたもの。ただ駕篭かき人夫の後ろ姿だけが印象に残った。

**２、西梅田キャンドルナイト（ワイド）**
**増池　茂さん　　６分１０秒**

アート性のある建造物で驚異的に変化したこの界隈を、できるなら人物を排し無機質の物体のみでイメージ映像にしたい願望がこの作者のどこかにあるのではないかと感じることがある。ときどき見せる感覚的に切り取った構図は如何にも人物が入るのを拒否しているかのようで、それが作品の核になっているのも確かだ。だが煌びやかなイルミネーションに輝く夜は誘蛾灯にさそわれるがごとく集まってくる若者たちの写り込みは避けられない。作品中のロングショットは作者がそこからの妥協を意識した結果で、そのために単なるビデオレポートの範囲で留まってしまった。しかし完成度は高く、これもひとつの成果として評価すべきだろう。西梅田をテーマにした過去の数作を統合すれば、またなにかが掴めるかもしれない。

**３、水の風情（ＨＤＶ）**
**有村　博さん　　６分１５秒**

作者としてはめずらしくノンナレ。季節ごとに訪れた裏磐梯の詩情豊かな風景がみごとに描かれていて美しい。緑や紅葉より雪景色に比重が置かれているがアップの少ないのはやや淋しい気がする。白銀の世界に沈む夕日はなんとも神秘的。

**４、北国脇往還（ＨＤＶ）**
**紙本　勝さん　　１２分５０秒**

江戸時代の湖北、木の本宿から関が原宿に到る、いわば昔のバイパス道路。北国道より人の往来は多かったというから当時の街道沿いは栄えたに違いない。宿場町の民家やお寺の由来など、いつもながら詳しい説明には驚かされる。姉川合戦のくだりなどはおそらく過去に全国を撮り歩いた膨大なストックの中から選んだと思うが、どのような整理をされているのか、ぜひお伺いしたい。祭りシリーズが一段落して最近は歴史に目を向けられているようだ。この作品は郡上宿までだが副題に前編とあった。続きを期待しょう。

**５、大阪駅周辺が変わるパート２（ＨＤＶ）**

**安居利次さん　　７分５０秒**

いきなり魚眼の威力が迫ってくる。阪急百貨店がこんなに天高く聳えているとは知らなかった。グランドビルから見た大阪駅周辺もまさかの変わりよう。市バスのターミナルに屋根がついて何かやっているなぐらいしか考えていなかったが、アクティも増築の真っ最中だったのだ。完成後を予想した大阪駅のＣＧ映像で全容が判明。梅田へは、地下鉄でヨドカメへ行くぐらいしか用のない私だが１０年前と変わらぬパターンで暮らしていて、どんどん世の中からとり残されていることに気がつき愕然とした。作者はこの計画が出たときから撮り初めてらしく当時と現在を小窓に分けて対比させているので解りやすい。なんでも１兆円の需要を生むという予測だそうだが、リーマンショックのどん底で果たしてプランどおりに達成が可能なのか、と作者の主張。とにかく２０１１年春の完成にはぜひ見てみたい。そのときまだ生きていればの話。

**６、岡本梅林公園（ＨＤＶ）**

**井上勝彦さん　　５分４５秒**

ＤＯＦアダプターテストと副題にある。聞けば一眼レフ用のレンズを装着して、そのレンズ特有の被写界深度を得るためのアダプターリングを特製されたそうだ。ボケ具合は物体との距離や絞りの数値で多少は変わってくるが、この映像を見る限り対象物とのピントはぴったりで、周辺のボケ効果は抜群だったと感じた。普通はクローズアップレンズを使用するが、その場合はピントの甘い締まりのない映像になりがちだ。作者はさまざまな撮影機器を考案、それによる特殊映像で例会を盛り上げてくれる貴重な存在。私もペンタックスの２０ミリを持っている。今回もまたたいへん良いヒントを頂いた。

**７、壬生寺節分会（ＨＤＶ）**

**進藤信男さん　　１０分**

幕末期、壬生寺周辺には新選組の屯所があったことで知られ、作品はその説明から始まる。八木邸や前川邸の門には「誠」ののぼりが立てられ観光客の目印になっていた。この作品の主題は山伏たちによる大護摩焚き。この日の壬生狂言は「節分」という演目が奉じられるはずだが、念仏堂はいつからか撮影禁止。カメラの持ち込みさえ出来ないそうだ。残念。ちかごろ急激に増えてきたアマチュアカメラマン。大口径レンズを持ち、所構わず脚立の上から人の頭越しにストロボを浴びせる。その横暴さに由緒ある行事からは軒並み締め出す傾向にある。このような伝統行事はもう撮れない時代なのか。作品では護摩の煙に狂言の静止画をダブらせ、そのナレーションに悔しさが込められていた気がする。

**８、パンダ園（ＨＤＶ）**

**華岡　汪さん　　３分４８秒**

北京動物園の熊猫館。本場だが人気があるのはやっぱりパンダ。ガラス窓を隔てて黒山の人だかりができていた。およそ１０頭あまりがごろんと寝転んで竹の葉っぱを食べている微笑ましい光景。それと観客を交互に撮る映像処理もすばらしい。

**９、慰霊の海（ＨＤＶ）**

**江村一郎さん　　６分１０秒**

余部作品もたくさんあるが、今回のテーマは鉄橋や荒海ではなく事故を回顧し、作者の粛然（しめやか）な心の内面を映したもの。昭和６１年１２月２８日。鉄橋上を通過中の列車が折からの強風に煽られ落下し、真下の蟹加工場を直撃。６人が死亡、負傷者６人をだす大事故だった。鉄橋の架け換えが始まった今年は、ことさら意義深いものがあるのではないか。作者の映像には見る人に訴え掛ける力を感じる。石に刻まれた悲しみの碑文。老いた参列者それぞ

れの顔。それと大波のカットバック。とくに大波が立ち上がった瞬間のスローモーションは、時空を越えて犠牲者に捧げる鎮魂の意と悟った。

**10、日本橋ストリートフェスタ（ＨＤＶ）**
**上田吉巳さん　　１１分２０秒**

年に一度、３月２０日の午後から電気屋街は歩行者天国になる。今宮戎の福娘たちが華を添え、平松市長も参加し、定額給付金はこの電気屋街でと呼びかける。ブラスバンド、ぬいぐるみの行進など。さしずめミニ御堂筋パレードといったところ。メイド姿の女の子たちがここぞとばかり愛嬌を振り撒き、そして今はどこにでもあるヨサコイ踊りでフィナーレへ。この日だけとは言え、かなりの量を撮っておられるはず。人も多い。そこからこんなに要領よく編集されたのはさすがだと思った。

**11、開門神事、福男選び（ＨＤＶ）**
**吉岡貞夫さん　　１４分１５秒**

西宮神社に関する映像、物事はこの作者をさしおいては語れない。神社の職員と同等の資格を持っておられるのだと思う。今年もまたその日がきた。厳寒の中で徹夜の撮影は年齢的にもさぞこたえるだろう。テレビで全国的に知れ渡ると同時に福男願望の若者が年ごとに増え、混乱を防ぐために今年から門前に並ぶ順番を抽選で決めるそうだ。毎年おなじ顔ぶれだった先頭集団が今回はまったく入れ替わったことになる。作者の解説では去年の結果をふまえ、今年は３カメで満を持したという話だったが、残念なことに先頭の若者が一番福を手にした瞬間が撮れていない。

**12、ゲッパ（ＨＤＶ）**
**前田茂夫さん　　１０分４２秒**

鉄道マニアでないと理解できない言葉がまたひとつ。昨年３月１４日を最後に時刻表から消えた東京－大阪間の夜行寝台急行「銀河」。それを牽引していたのは東京・田端機関区所属のＥＦ６５型１１１８号電気機関車。１をゲ、８をパと言い、本来ならゲゲゲパだが略してゲッパと呼ぶらしい。列車が廃止と決まれば一斉ににわかファンが押し寄せる毎度の光景がまた繰り返された。この最終列車の切符は発売後２秒で売り切れたというから凄まじい。それはともかく、銀河はゲッパだけでなく他の６５型機関車も引いていたが、真紅の車体に白い大きなＥＦ６５の文字が目立つゲッパはとくに鉄道ファンの人気を集めていたという。ファンと言えば作者も相当なもの。大阪周辺を走るのは早朝か深夜だが、一瞬の走行風景を撮るために何度も通われたのだ。その熱心さに頭の下がる思いがする。ところで余計なことかも知れないが、１をゲと呼ぶ理由がいまだに解らない。

**13、星に想いを～善兵衛（ＨＤＶ）**
**宮井　健さん　　６分２０秒**

貝塚市の天文台を紹介する作品。江戸時代、自然科学に興味を持った貝塚の岩橋善兵衛という人が欧米からの渡来品を見習って望遠鏡を作り、それが評判となって大名や天文学者からも認められた望遠鏡作りのエキスパート。この天文台の呼び名にもなっている。その頃の鏡胴の材料は竹や木材が主で漆の装飾が施されていたという。この天文台ができたのは平成４年でバブルの真っ最中。天文ドームと立派な天体望遠鏡があり、それらはコンピューターで制御されるそうだ。拝見したところ少女が一人望遠鏡を覗いていたが、ほかに人影は見当らない。今は未曾有の財政難時代、お荷物にならなければいいが。

**14、雲南遊山（ＨＤＶ）**
**山本正夢さん　　５分４０秒**

たしか貴州省だったか、以前も棚田の作品を拝見した。そのときの畦と水とのみごとなコントラストが今も印象に残っている。最初に大理三塔が出てきたのでその近辺の風景かなと思ったが、どうやら昆明や元陽あたりでも撮っておられるらしい。霧が山の斜面を這う墨絵のような光景だが、その隙間から垣間見る棚田はちょうど水を張った時期でたいへん美しい。作品の中の棚田と直接関係はないはずだが、着飾ったイ族の踊る女性たちや顔アップを棚田風景とダブらせるタイミングと長さのバランスが絶妙。撮影のために踊らせたのではなく彼女らの自然体を撮ったと言うから驚く。それが作品全体のアクセントとなり、そして構成の巧さが見る者を納得させていた。